第5講　詠嘆形・比較形・仮定形・限定形・累加形

PART1　詠嘆形

一　詠嘆形

① **不亦(また)A乎。**　＝またAずや／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

（例）不亦楽乎。〔亦楽しからずや。〕（なんと楽しいではないか。）

② **豈(あニ)不A乎。**　＝あニAずや／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

★　豈不～乎＝「豈に～ざらんや」と読めば「　　　」の意味になり、（　　　）と訳す。

（例）豈不学乎。〔　　　〕（　　　）

豈不遠乎。〔　　　〕（　　　）

③　**何(ゾ)（其(レ)）Ａ（也）**。＝なんゾ（そレ）Ａ（や）／（なんとＡではないか）

（例）何其浅也。〔　　　　　　　　〕（なんと浅薄であろうか。）

④　**Ａ（＝連体形）哉(かな)、Ｎ也(や)**。＝Ａかな、Ｎや／（Ａだなあ、Ｎは）

（例）美哉、花也。〔美しきかな、花や。〕（美しいなあ、花は。）

⑤　**〜乎・哉・矣・夫・与**。＝〜かな／（〜だな）

（例）嗚呼(ああ)美哉。〔嗚呼美しきかな。〕（ああ、美しいなあ。）

⑥　**宜(むベナル)乎**。＝むベナルかな／（もっともだな）

＊乎＝哉

⑦　**已(やンヌル)矣乎(かな)**。＝やンヌルかな／（残念だな・どうしようもない）

問一　「不㆓亦宜㆒乎。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　またよろしからず。
イ　またむべならずや。
ウ　またもむべならざらん。
エ　またよろしくせざるなし。
オ　またもよろしくすべからざるなり。

問二　「何其仁ト与㆑明之無㆑不㆑周也」を書き下し文にし、また口語訳もせよ。

注　仁…仁愛。
明…明察。
周…「周（あまね）し」。広くゆきわたる様子。

〈書き下し文〉

〈口語訳〉

〈Memo〉

第5講　PART1　確認問題

①「賢ナル哉回也。」の書き下し文になるように空欄ａ・ｂに入る組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「賢なる［ａ］回［ｂ］。」

ア　ａ＝や　ｂ＝や
イ　ａ＝や　ｂ＝なり
ウ　ａ＝かな　ｂ＝や
エ　ａ＝かな　ｂ＝なり

②「かくのごときかな」と読める最も適当なものを、次の中から選べ。

ア「如レ斯夫」
イ「如二斯夫一」
ウ「如レ斯已矣乎」
エ「如二斯宜乎一」

③　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「舎㆓其路㆒而弗㆑由、放㆓其心㆒而不㆑知㆑求。哀哉。」

ア　断定　　イ　詠嘆　　ウ　疑問　　エ　推定

④　「不㆓亦重㆒乎。」の読み方と解釈の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まだおもかざるなり。　重いと感じないではないか。
イ　いまだおもかざるや。　なんと重いものではないか。
ウ　またおもからずか。　そんなに重いものだろうか。
エ　またおもからずや。　なんと重いものではないか。
オ　まだおもかざるか。　そんなに重いものだろうか。

⑤　「是何楚人之多也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　なんと楚の国の人の多いことよ。
イ　なぜ楚の国の人が多いのだろう。
ウ　楚の国の人が多いのをどうしたらよいか。
エ　楚の国の人は多いのだろうか、いや多くない。

第５講　PART1　解答

一

②〔豈に学ばざらんや。〕（どうして学ばないだろうか、いや、学ぶ。）

〔豈に遠からずや。〕（なんと遠いではないか。）

③〔何ぞ其れ浅きや。〕

問一　イ

問二　〈書き下し文〉　何ぞ其れ仁と明との周からざる無きや

〈口語訳〉　なんと仁愛と明察が広くゆきわたっているではないか

第5講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「A（＝連体形）哉N也。」で「Aかな、Nや。」と読み、「Aだなあ、Nは。」と詠嘆の意味を表す。ここでは、「賢なるかな、回や。」（＝賢明であるなあ、回は。）などと訳す。よって、ウが正解。

② 「夫」は「かな」と読み、句末に置いて詠嘆＝「〜だなあ」の意味を表す。ここでは「このようだなあ」と訳す。ウ「已矣乎」は「やンヌルかな」、エ「宜乎」は「むベナルかな」と読み、いずれも詠嘆を表す。よって、アが正解。

③ 「哉」は「かな」と読み、詠嘆を表す。よって、イが正解。「哀哉」＝「なんと情けないことだなあ。」などと訳す。

④ 「不亦…乎」は「また…ずや」と読み、「なんとまあ…ではないか」と詠嘆の意味を表す。よって、エが正解。

⑤ 「何…也」は「なんゾ…や」と読み、「なんと…ではないか」と詠嘆の意味を表す。よって、アが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ イ　④ エ　⑤ ア